



令和5年3月13日

### 第76回 法人企業景気予測調査結果（四国地方の概要） （令和5年1～3月期調査）

## 企業の景況判断は2期ぶりに「下降」超幅が拡大

～原材料及びエネルギー価格の上昇や利用客回復の一服感などにより「下降」超に転じる～

全産業の景況判断BSI（1～3月期）は、▲14.1%※で2期ぶりに「下降」超幅が拡大した。

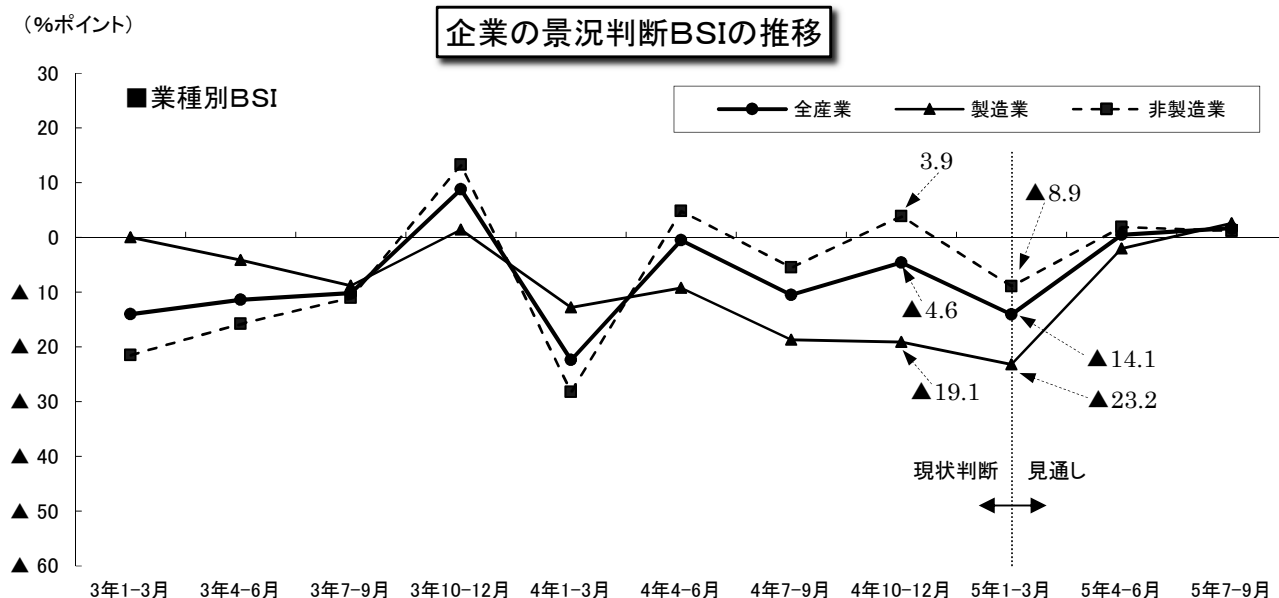
原材料・仕入価格やエネルギー価格の上昇で利益が圧迫されていることや、前回調査（10～12月期）で全国旅行支援及び新型コロナウイルスの影響緩和等で「上昇」超となっていた非製造業の「不動産」、「宿泊、飲食サービス」、「生活関連サービス、娯楽」が利用客回復の一服感などから「下降」超に転じたことなどにより、9.5%※「下降」超幅が拡大している。

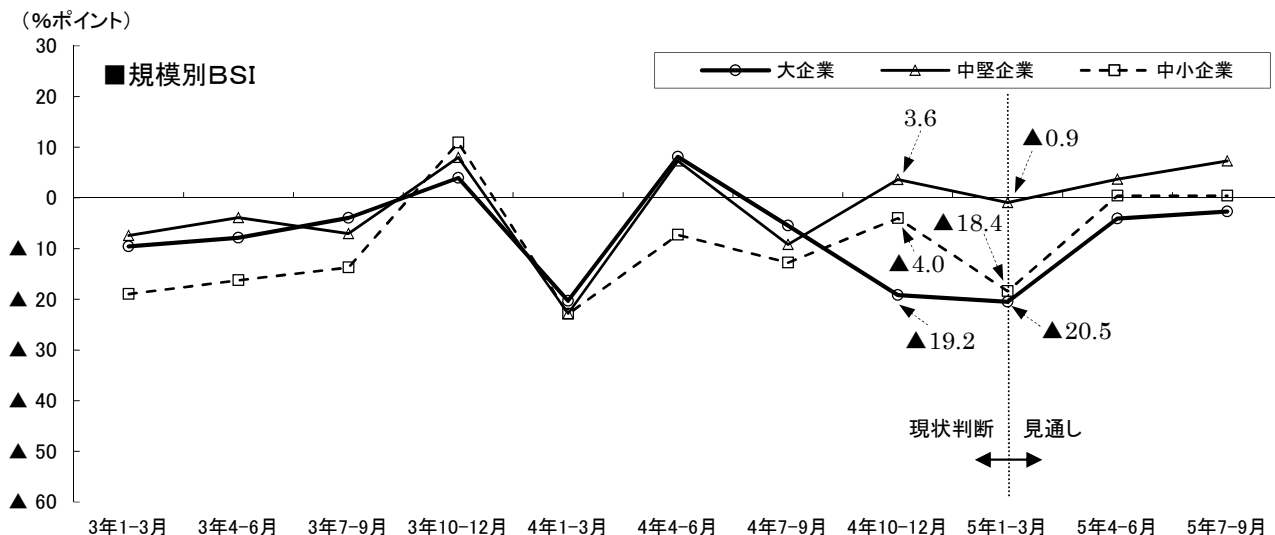
業種別にみると、製造業では、「生産用機械」が堅調な設備投資需要を背景に「上昇」超に転じたものの、「食料品」が原材料価格や物流費の上昇等により、「情報通信機械」が需要の減少等により「下降」超に転じたほか、「窯業・土石」で原材料価格の上昇等により「下降」超幅が拡大したことなどから、全体では「下降」超幅が拡大している。

非製造業では「卸売」で商品の納入遅延の解消等により「下降」超幅が縮小したものの、「宿泊、飲食サービス」、「不動産」、「生活関連サービス、娯楽」が利用客回復の一服感等から「下降」超に転じたほか、「小売業」で仕入価格やエネルギー価格の上昇等により「下降」超幅が拡大したことなどから、全体では「下降」超に転じている。

規模別にみると、特に中小企業が前回調査から14.4%※「下降」超幅が拡大しており、全産業の景況判断BSIを引下げている。

全産業の先行きについてみると、価格転嫁による利益水準の改善、コロナの5類移行による利用客の回復やインバウンド客の増加などを見通し、「上昇」超に転じている。





●企業の景況判断BSI（前期比「上昇」-「下降」社数構成比・原数値、単位：%ポイント）

現状判断

- ・「全産業」は、▲14.1 と前回調査▲4.6 から「下降」超幅が拡大。(BSI 差▲9.5 ㊦)
- ・「製造業」は、▲23.2 と前回調査▲19.1 から「下降」超幅が拡大。(BSI 差▲4.1 ㊦)
  - 16 業種（非公表の「業務用機械」を除く）中 1 業種が「上昇」超、2 業種が「上昇」「下降」同数、13 業種が「下降」超。
  - （前回：17 業種中 2 業種が「上昇」超、4 業種が「上昇」「下降」同数、11 業種が「下降」超。）
- ・「非製造業」は、▲8.9 と前回調査 3.9 から「下降」超に転じている。(BSI 差▲12.8 ㊦)
  - 16 業種中 4 業種が「上昇」超、2 業種が「上昇」「下降」同数、10 業種が「下降」超。
  - （前回：16 業種中 7 業種が「上昇」超、4 業種が「上昇」「下降」同数、5 業種が「下降」超。）
- ・「大企業」は、▲20.5 と前回調査▲19.2 から「下降」超幅が拡大。(BSI 差▲1.3 ㊦)
- ・「中堅企業」は、▲0.9 と前回調査 3.6 から「下降」超に転じている。(BSI 差▲4.5 ㊦)
- ・「中小企業」は、▲18.4 と前回調査▲4.0 から「下降」超幅が拡大。(BSI 差▲14.4 ㊦)

先行き判断

- ・翌期（4～6月期）見通し：「全産業」で 0.5 と「上昇」超に転じる見通し。
- ・翌々期（7～9月期）見通し：「全産業」で 1.7 と「上昇」超幅が拡大する見通し。

●従業員数判断BSI（期末判断「不足気味」-「過剰気味」社数構成比・原数値、単位：%ポイント）

- ・「全産業」で 32.7 と前回調査時 33.0 から「不足気味」超幅が若干縮小。(BSI 差▲0.3 ㊦)

●売上高、経常利益（令和 4 年度は増収・増益見込み、令和 5 年度は増収・減益見通し）

- ・令和 4 年度は、「全産業」で売上高は 3.7%の増収見込み、経常利益は 3.9%の増益見込み。
- ・令和 5 年度は、「全産業」で売上高は 4.9%の増収見通し、経常利益は 27.8%の減益見通し。

●設備投資（令和 4 年度は増加見込み、令和 5 年度も増加見通し）

- ・令和 4 年度は、「全産業」で 8.2%の増加見込み。
- ・令和 5 年度は、「全産業」で 17.1%の増加見通し。

【問い合わせ先】

四国財務局 財務広報相談室

Tel.087-811-7780(内線 260：矢野)

四国財務局 経済調査課

Tel.087-811-7780(内線 250：藤原)

四国財務局 公式キャラクター



しこく